

治療抵抗性歯周炎患者のアジスロマイシン投与における 臨床的，細菌学的評価

佐藤 哲夫

松本歯科大学 大学院歯学独立研究科 健康増進口腔科学講座

Clinical and bacterial evaluation of Azithromycin
administration for the treatment of resistant periodontitis

TETSUO SATO

*Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Oral Medicine,
Matsumoto Dental University*

【諸言】

歯周病は多種類の歯周病原細菌が引き起こす感染性疾患であり，生体の炎症，免疫応答の遷延化から進行していくことが明らかになっている．歯周病治療の基本は，細菌および細菌由来有害物質の機械的除去療法が主体であり，良好な成績が報告されている．しかし，臨床的にブラークコントロールを入念に行い，歯周病治療を施行したにもかかわらず進行する治療抵抗性歯周炎もわずかであるが存在する．このような難治症例は，抗菌薬療法が選択肢とされてきたが，細菌検査法の確立，普及が十分なされていないことからその根拠に乏しい．さらに，種々の薬物療法は，その適応症，適切な抗菌薬の選択，投与量，投与期間，投与時期などについて確固たる科学的根拠に基づいていない．そこで本研究において，歯周病患者の中での治療抵抗性歯周炎の頻度を調査するとともに，治療法として抗菌薬療法が有効であるかを臨床的，細菌学的パラメーターを指標に検討した．細菌学的パラメーターとして *Porphyromonas gingivalis* 菌，*Actinobacillus actinomycetemcomitans* 菌，そして口腔内の総菌数を real time-PCR 法を用いて測定した．

【対象と方法】

被験者

被験者は，過去 6 ヶ月以内に歯周病治療を受けておらず，抗菌薬の服用がない者とし，16 歯以上の現在歯があるものとした．病態の程度は，プロービング深さ Probing Depth (PD) 4 mm 以上の部位各歯 6 点計測で 20% 以上，歯槽骨吸収率は平均で 30% 以上の歯周炎患者を対象とした．

方法

初診時に全顎法エックス線写真撮影，口腔内写真撮影，臨床パラメーター測定 PD, Bleeding On Probing, 歯肉炎症指数 Gingival Index, Mobility, 細菌学的評価のため唾液採取を施行した．歯周基本治療として，ブラッシング指導，ブラークコントロール，歯肉縁上スケーリング，SRP を施行し，SRP 終了後 4 週に再評価検査を行った．再評価検査時には，初診時同様に唾液採取を施行した．再評価検査において PD の改善が認められない部位に対して再 SRP を施行，さらに 4 週に再評価検査，唾液採取を施行した．この再評価検査において，BOP 部位率が初診時の 30% 以上残存している被験者を治療抵抗性歯周炎罹患被験者，すなわち抗菌剤服用群として薬物療法へと移行した．抗菌薬は，アジスロマイシン単回投与

製剤を用い、薬物療法開始後4～7週で再評価検査、唾液採取を施行した。BOP部位率が初診時の30%未満の被験者は、歯周基本治療により改善が認められたものとして投薬対象からは除外した。

細菌学的サンプルとして全唾液を用い、real time-PCRによる増幅、定量を行った。

【結果および考察】

被験者31名中、26名は歯周基本治療により歯周組織の改善が得られ、治療群となった。5名(16.1%)が抗菌剤服用群としてアジスロマイシン投与の対象となった。臨床パラメーターは、SRP後4週のPD、再SRP後4週のGIで、抗菌剤服用群は治療群に比較して良好な改善を示し、有意差が認められ、投薬後4～7週のBOP率では、抗菌剤服用群が治療群よりも良好な改善を認めた。細菌数は、再SRP処置後に著しい変化が見られた。抗菌剤服用群で、投薬後4～7週

で初診時の29.0%であった。*P.g.*菌は初診時に全ての被験者から検出され、歯周基本治療にともなって顕著に減少し、治療群で初診時の4.9%になった。再SRP施行後、治療群では1.1%、抗菌剤服用群では0.5%まで減少した。総菌数中に占める*P.g.*菌数の割合は、治療群に比較して抗菌剤服用群において有意に減少が認められた。

*A.a.*菌の検出は少なく、抗菌剤服用群の5症例中で3症例に検出され、SRP1回での治療群では検出されなかった。再SRP施行後の治療群では再SRP後4週で初診時の19.8%、抗菌剤服用群では12.9%に減少し、投薬後4～7週では検出されなかった。今後、適切な細菌検査と適応症の分類が確立されれば、同剤投与はバイオフィルム感染症としての歯周病治療において、非外科的治療の有効な補助療法として応用される可能性が示唆された。